

1 学校づくりの目標 - 策定委員会、教職員、保護者との対話を通して設定

- (1) 生活_安全で、安心して健やかに過ごせる
- (2) 学び_障害種や発達段階に応じ、多様な体験と交流を通して学び育つ
- (3) 健康_心身の健康を保ち、ウェルビーイング*を高める
- (4) 交流_地域住民と保護者、近隣の学校とつながる
- (5) 育む_より良い教育実践に取り組める
- (6) 共創_みんなで創り、大切に活かす

*ウェルビーイング：身体的・精神的に満たされた状態

2 計画条件

■ 想定児童生徒数

日立特別支援学校に約140人の児童生徒が在籍
日立市在住で県立特別支援学校に一定数の児童生徒が通学

新施設となることで、本校への通学を希望する児童生徒の増加が予想されるため、**200人程度の児童生徒数を想定した施設環境を整える**

■ 計画面積

国庫補助基準面積（学級数等で算定）の範囲内で計画
（令和4年度の学級数等→校舎 約9,000㎡、体育施設 約1,000㎡）

【計画施設面積】	合計9,250㎡
校舎	8,100㎡（西側の既存校舎を含む）
体育施設	800㎡（体育館・屋外体育倉庫）
プール付帯施設	150㎡（水面積100㎡）
学童保育施設	150㎡（複合施設）
備蓄倉庫	50㎡（福祉避難所用）

■ 施設配置の計画条件

校地：多賀中学校と一体的な環境であり、利用実態・既存施設の配置等を踏まえ、次のように設定

- (1) 現在の校地の範囲内（赤線 14,087㎡）で建て替える
- (2) 新耐震基準に適合している西側の既存校舎は改修して使い続ける
- (3) 校庭は多賀中学校との共用を踏まえ、建設後も現在の位置とする
- (4) 東側道路は将来BRT路線となるため、校地の一部が道路となる可能性を考慮する

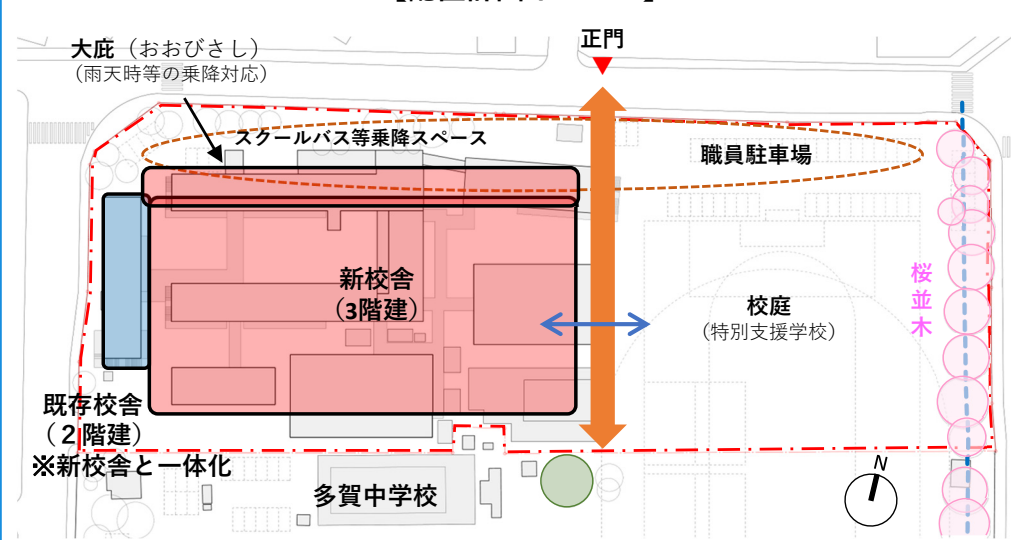
西側の校舎は解体せず改修して使い続ける 【現在の施設配置】 東側道路沿いの校地が将来道路となる可能性がある



3 配置計画の方針

- (1) 計画条件を踏まえた校舎配置（現校舎と同様の校舎配置）
- (2) 安全に通学できるアプローチ
明確な歩車分離、校庭と校舎のスムーズな移動
多賀中学校の生徒も使用するアプローチの整備
- (3) 活動や年齢に応じた校庭・中庭等の整備
多賀中学校と一体的に利用できる校庭
陽だまりで心地良く交流できる中庭の整備
作業活動用の菜園や安全な遊び場の確保
- (4) 雨天時でも安全に乗降できる駐車スペースの確保
雨に濡れずに乗降可能とする大庇（おおびさし）等の設置
- (5) 高さを抑える 3階建て以下（上下移動負担の軽減）
- (6) 既存樹を活かす 桜並木等を活かせる校舎配置

【配置計画イメージ】



4 平面計画の方針

- (1) 西側の既存校舎 長寿命化改修を実施し、新校舎と一体的に整備
- (2) 教室配置 学年や学部のみとまりを確保し、進級に応じて上階に上がる配置（高等部3階など）
- (3) 風通しのよい環境 中庭を設け、風通しのよい環境の整備
- (4) 学校図書館 学校の中心に位置付け、行き来しやすい2階中央に配置
- (5) 作業活動室 中学部・高等部ともに教室と同じ階に配置
- (6) 地域開放施設 体育館や多目的室等を北側に集約して配置
- (7) 職員室 アプローチや校庭を見渡せる1階に配置
- (8) 教員スペース 各学部の教室まわりに配置
- (9) 小プール 屋上に配置し敷地の有効活用を図る
- (10) 廊下 廊下幅・見通しの確保、適所に児童生徒の作品等を展示
- (11) 給食車両動線 南西角からとし、隣接して配膳室と再調理室を整備
- (12) 中庭・広場など 校舎間、校舎と校庭間に中庭や遊具広場等を設置

5 教室・教室まわりの計画

■ 整備方針

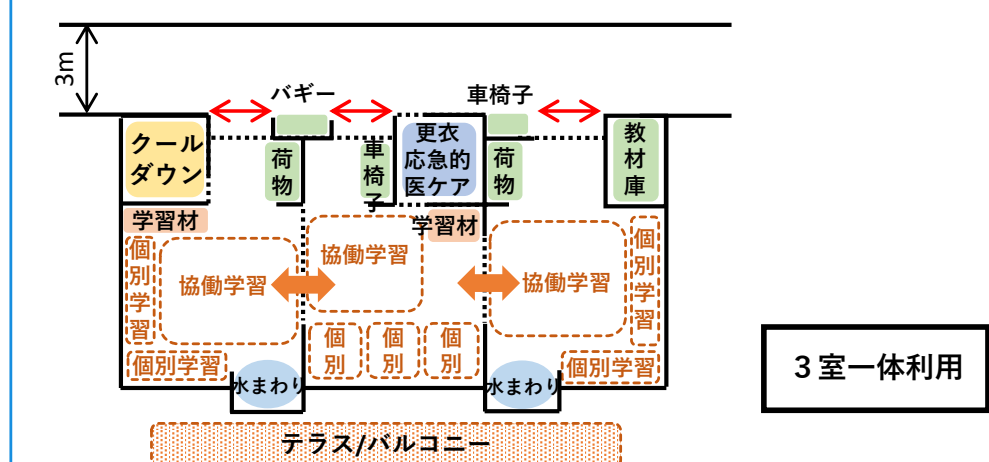
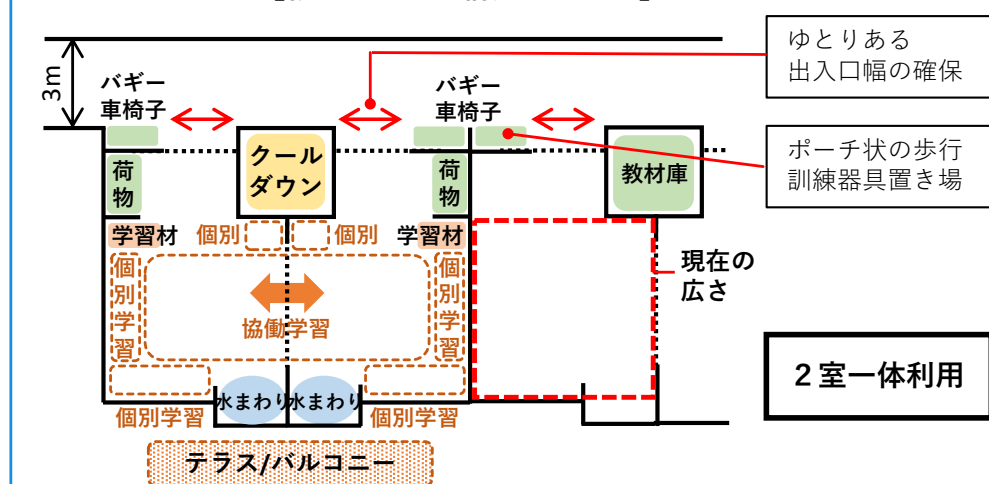
- (1) 実態や人数の増減に応じて、教育環境を整えられる柔軟性を確保する
- (2) 心身の発達段階に応じた教室や設備を整える
- (3) 様々な学びの場面でのICTの活用
- (4) 窓の開閉や出入口等の動線上の結節点は特に安全性に配慮する
- (5) 収納スペースを適切に用意し、学びと生活の場として整える

■ 教室まわりの構成

<小学部>

- (1) 個別学習の場と協働的に活動する場をそれぞれ整え、児童の実態に応じて使い分けができるようにする
- (2) 天井を一部低くし、教材等を低い位置に収納するほか、カーペットやマットを敷くなど居心地の良い環境を整える
- (3) クールダウン用の小部屋など、気持ちを落ち着ける場所を用意する
- (4) 隣り合う2教室を直接つなげて一体的に使えるようにするなど、フレキシブルに使える構成とする
- (5) 教室の近くに重複教室を配置することで、肢体不自由児もクラスの仲間たちと一体感を感じながら活動できるようにする

【教室まわりの構成イメージ】



<中学部・高等部>

- (1) 体育や作業活動等で着替えが多くなるため、学年ごとに男女別の個人ロッカーのある更衣室を用意する
- (2) 生徒が交流できるラウンジ空間を用意する
- (3) 1クラスの定員が8名となる高等部は一まわり大きな教室を用意する
- (4) 個別学習や協働学習、一斉指導等の多様な授業形態が行いやすい構成やデザインを工夫する
- (5) ソファ等を置けるリフレッシュコーナーを用意する

